

「理性」のある大人に

「声をかけても、すぐにくっついてしまうんです。」
ある職員が発した一言です。「子どもだから」と大目に見るわけにはいきません。生徒の皆さんを学校で預かっている以上、適切なディスタンスをとらせるために、たとえ口うるさいと思われても、私たち教師は注意し続けていきます。それが私たちのやるべきことです。

しかし、正直言って、言い続けなければならぬ状況があるということは残念です。「中学生は半分子どもで半分大人」と言えますが、子どもの部分ばかりが目立っているのは、「暖簾（のれん）に腕押し」感が否めず、将来が心配になってきます。子どもの部分はあっても、それと同じくらい大人としての部分が目立ってほしいものです。皆さんは、新聞やテレビのニュースに、毎日目を通していますか。世の中の状況を自分からつかもうとしていますか。テレビや新聞にコロナの話題が出てこない日はありません。感染者が増えたとか減ったとかということを気にするだけならまだまだ子どもです。気にもしないなら……。「大丈夫？」と言いたくなってしまうます。

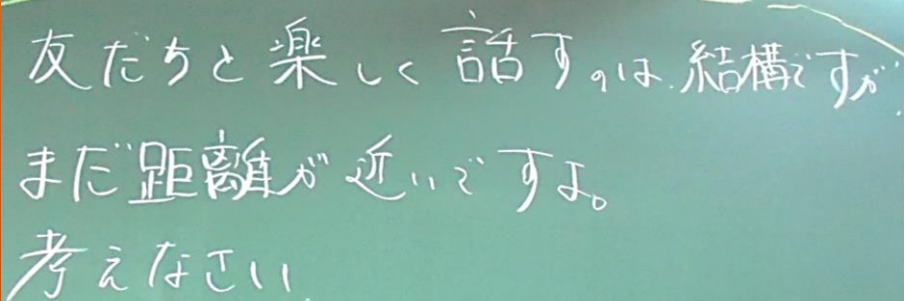
中学生ともなれば、世の中の状況が今どうなっているのかということについて、自分から情報を求めましょうよ。最近では「デルタ株」の猛威だけでなく、「ミュー株」という変異株の流行についても心配されています。そして、そんな現状を知った上で、自分たちはどうすべきなのかを真剣に考えましょう。それができて、大人に近づいてきたと言えるのではないかと私は思います。

世の中の動きより、ゲームをやったりアニメを見たりしていた方がおもしろいことは確かです。それらをやめろとは言いません。むしろそれらが自分にエネルギーを与えてくれたりリフレッシュさせたりしてくれるなら、上手に利用してください。

でも、それだけではいけません。現状や今の自分を冷静に判断して、自分のとるべき行動を決めたり優先順位をつけたりすることが、中学生ではそろそろできてほしいと思います。それをやる力を「理性」と言います。「やりたいからやる」だけでは「理性」があるとは到底言えませんね。

今朝、三年B組の黒板に下のようなメッセージが書かれていました。メッセージ自体はこの三倍くらいありましたが、私は最後に書かれたこの三行に目を付けました。担任のI教諭は、三Bの生徒の理性を刺激しようとしていました。「考えなさい」のひとことで、「理性」を発揮できる大人の生徒が三Bには多くいることを期待します。

（九月六日 記）



友だちと楽しく話すのは結構ですが
また距離が近いですよ。
考えなさい。